

所 信 の 表 明

礼文町長 小野 徹

本日、ここに新しく選ばれました議員各位をお迎え致しまして、平成21年第5回礼文町議会臨時会を開催するにあたり、今後四年間の私の町政に対する所信を申し述べ、町議会議員各位並びに町民皆様のご理解とご協力を頂きたいと思っております。

議員各位におかれましては、去る6月23日告示の議会議員選挙におきまして町民の信任を得られ無投票当選されましたこと、誠におめでとうございます。

私も、同日告示された町長選挙において、町民皆様んからの温かいご支援により、本町で初めて二期連続無投票という栄に浴することができましたことに心から感謝をしているところでございます。

町民みなさんのご理解が無投票再選という形になったものと思っておりますが、私は、不満や批判を含めた声なき声をしっかりと受け止め、町民みなさんの想いを大切にしながら、心を砕いて頑張っていかなければ

ればならないと、あらためて、その責任の重さを実感しているところでもあります。

そして「ふるさと礼文町」を築いてこられた先人の逞しい気概に学び、誠心誠意、私に与えられた職責を全力で務めてまいります。

礼文町の将来を展望するとき、産業の振興により地域の経済力を高めなければ、福祉や医療、教育などを支える社会基盤を確保していくことは困難であり、安心して暮らしていける町づくりを行うことはできません。島の将来のために今やらなければならないことには積極的かつ効果的に取り組み、「安心して暮らせる礼文島をつくり、住んでよかったと誇れる礼文町」をめざして、私が公約に掲げました「七つの目標」の実現に向かって努力してまいります。

はじめに「外海の一島一町の離島が豊かであるために・・・」について申し上げます。

私は、今日まで、市町村合併の問題は、私の最大の行政課題として取り組んできたところであり、地方分権の受け皿となるため、また、町民みなさんの幸せを守る為に「行政能力」「財政能力」「自治能力」の三つの能力を向上させる必要があり、「市町村合併」はそのための有効な手段であると考えてきました。

しかしながら、この四年間、わが町の進むべき道を示すことができなかったことを大変申し訳なく思っております。したがって、来年三月までの合併新法の期限内にわが町がどこかの町と合併することは極めて困難であり、当面、単独で自立の道を歩まなくてはなりません。

そうした中で、先日晒された第29次地方制度調査会の答申では、合併新法による国の合併推進も、来年3月で期限切れとなり、これ以上の合併促進は行われないこととなります。

しかし、合併できなかったことで、すべてが解決したわけではありませんし、合併しなかった町村が、今

後、優遇されるということも決してあり得ません。むしろ、地方分権が進み、住民に最も身近な行政体として行政基盤の強化が求められてまいりますが、昨今の世界的な景気後退も相俟って小規模な町村は益々厳しい状況に置かれると思います。

そうした状況から、総務省は、原則人口五万人の中心市と周辺町村が圏域全体の暮らしに必要な機能を強化し、住民サービスを向上させるなど、周辺市町村が具体的な分野の協定を結んで連携を強化する「定住自立圏構想」により自治体間の新たな連携策を打ち出しました。今後、「平成の大合併」に代わるものとして、例えば「二次医療圏」や「宗谷観光圏」（仮称）など「定住自立圏構想」への対応が求められてまいりますので、具体的な取り組みに向けて努力し、外海の一島一町の小さな町が、活力を失うことなく生きていくためにどうすればいいのかをじっくりと考え、果敢に取り組んでいきたいと考えております。

二つ目は「職員は町づくりのリーダーです・・・」
についてであります。

私は、二期目のスタートにあたって職員に「正直ものが正直に生きていける社会を作り上げていくため常に“清く正しく美しく”働こう。」と訓示をいたしました。

四年前私は「管理から経営へ」という考え方が必要であると申し上げました。それは行政が法令に基づいて行われるために、私たちは、すべて「管理すること」が自分たちの仕事だと固く信じてきたからであります。しかし「経営」とは、努力するとか、頑張る、工夫する、計画的にやるといった「結果を大切にする」考え方でございます。

そして、柔軟に思考することによって、所謂「ほう（報）れん（連）そう（相）」の徹底や「仕事のスピード感」など、私は、職員の意識が少しずつ変わってきていると感じています。

また、そうした「経営」という意識、感覚を持つこと

によって「元気な礼文づくり」や財政の健全化も「集中改革プラン」を一步一步地道に、又、確実に進めることができたわけであります。お陰様で「実質公債費比率」も「21.4」に改善することができましたが、まだまだ八十数億円の起債残高があります。

ちょうど今年は、次の10年間の総合振興計画を策定する大事な年にあたっておりますが、これからも厳しい状況の中で、更なる財政健全化に向けた挑戦をしなければなりませんので、職員には、従来の既成概念を取り払い、積極果敢に挑戦していく気構えと強い意志を持っていただきたい。それが「管理から経営へ」ということの趣旨であることを申し上げます。

そして、もうひとつ。「天下の憂いに先立って憂い、天下の楽しみに遅れて楽しむ」という「先憂後楽」の精神を職員に持つようにと申し上げます。

所謂「行政というのは“憂い”があれば町民の方よりも先に気づいて、これに対処し、それがうまくいって“楽しみ”ができて、それを享受するのは町民の

皆さんより後でいい」という考えであります。大変難しいことですが、私は、職員には、常に、この考えをもち、町民みなさんのニーズを理解し、何が求められているか、あるいは、何が必要なのか等々をきちんととらえて「元気なふるさと礼文町」を創る「清く正しく美しいリーダー」になってほしいと考えております。

三点目は「がんばる人が幸せになる町・・・」について申し上げます。

私は、いつも、「がんばる人が幸せになれる社会」でありたいと願っています。礼文町の基幹産業は「漁業」であり、又、「観光」も欠かすことのできない大切な産業です。私たちは、礼文島の海の幸を全国の食卓にお届けするという大事な役割と礼文島の豊かな自然の中で雄大な景色や可憐な高山植物、そして北の海の幸を楽しみ、最北端の島の温泉でゆったりと過ごしていただく「国民の癒しの島づくり」を担いながら、礼文島でしっかり生きていかなければなりません。

したがって、漁業を支える基盤である「漁港」の整備を図り、また、作り育てる漁業の代表として「コンブ養殖」の推進など水産業の振興を図ってまいります。また、どうすれば島にあるものにどれだけ多くの価値を見出し、また価値を加えて「島の宝」として売り出すことができるか、例えば、「細胞を壊さずに生かしたまま凍結する新しい冷凍技術 CAS フリージング・チルド・システム」等の活用も真剣に取り組まなければならないと考えています。

一方の「観光」についても積極的な対策とがんばる人への支援が必要です。「観光」は、お客様に満足していただくことが一番大事なことです。それによって礼文島のファンをつくり、多くの方に礼文島でゆったりと過ごしていただくことが大事ですが、昨今の世界的な不景気という厳しい経済情勢の中では礼文島観光も強い向かい風に直面しています。しかし、こんな時だからこそピンチをチャンスに変える積極的な取組が必要です。

今や観光は、ツアー旅行から小グループや家族、個人旅行へと移行していますので、新たな旅行形態を創り出して観光の活性化を図ることが必要となっております。

地方の元気再生のため「礼文島西海岸クルージング事業」を新たな観光資源として事業展開に向けてチャレンジするとともに、「利尻礼文サロベツ国立公園」や「宗谷シーニックバイウェイ」を基軸に稚内、利尻と連携した、例えば「宗谷観光圏」を通して「ゆとりツーリズム」や「エコツアー」などの新たな取組みを進めて、にぎわいと活気に満ちた礼文島を取り戻してまいりたいと考えています。

四点目の「安心づくり～人にやさしい町」について申し上げます。

礼文島で安心・安全を確保するためには、離島という地理的条件のなかで、身近に医療や介護、福祉や保健がしっかりと整備されていることが重要であり、子

育てや教育環境の充実整備が求められております。

礼文町の高齢者福祉計画の基本は「誰もが住みなれたふるさとで安心して暮らすことのできる町をつくること」であり、町福祉協議会と礼宝園の充実に努め、保健、福祉や介護においても、誰もがふるさとで健康に生き生きと暮らすことのできるよう、地域包括支援センター、国保診療所、礼文町社会福祉協議会や礼文福祉会などの連携を強化し、高齢者や障害者のみなさんが、生きがいをもって生活ができるよう支えあう環境を整えてまいります。また、島で元気に暮らすためには健康であることが一番でありますので、礼文島初の天然温泉「うすゆきの湯」の充実に努め「さわやか検診」を復活させ、ひとり一人の健康づくりを充実させてまいります。更に、離島においては常に医療が身近にあることが重要であります。診療所の医療体制を充実するとともに、不足している医療スタッフを地域で育成する方策の充実強化に努めてまいります。また、離島医療の充実のため「二次医療圏」の取組み

を進める一方、今年秋には「ドクターヘリ」が導入されますので、救急救命体制を北海道や道北市町村と連携して整えてまいります。

五点目は「子どもは礼文の宝」について申し上げます。礼文島の教育は、学校・家庭・地域が強い連携のもとに子どもたちの豊かな成長を願う「ふるさとに学ぶ・礼文学」と確実な基礎の定着を図る「礼文検定」の二本を柱に「保育所、小学校、中学校、高等学校の教育連携」という教育に携わる多くのみなさんの熱意によって特色ある「礼文の教育」が行われてまいりました。今も、それは多くの皆さんのお力に支えられて、わが町の「地域に学ぶ礼文学」や「教育連携」という礼文町独自の教育に引き継がれ、全国からも注目されております。私は、このことに感謝しながら、さらに、「心の豊かさ」や「地域に学ぶ」教育活動が推進されるよう期待をしているところでございます。

また、未来を担う子供たちの笑顔は、「礼文の宝」

であります。

お母さんが安心して子供を産むことができるように「妊婦検診の全額負担」と「フェリー一等運賃全額助成・宿泊費一部助成」を引き続き継続して参ります。

「船泊保育所の統合問題」につきましては、行政改革の中で香深保育所との統合が議論され、今日まで5年以上にわたって検討してまいりましたが、「遠距離通園が幼い子供たちの大きな負担になること」や「小規模であっても船泊に保育所を」など保護者の皆さんの存続を願う声が大きく、「国をあげて少子化対策を実施している状況の中では、町財政は苦しいけれど、若いお父さんお母さんが安心して子供を預ける保育所を無くすることはできない。」という結論に至った次第でございます。もちろん、これまでの行革で保育所経費の節減にも努めてきましたので、この問題の検討を始めた頃とは事情が大きく変わっていることや船泊保育所の園児の数が香深保育所より多いといった状況も背景にはあるわけでございますが、私は、礼

文島で安心して暮らすには、子供たちの明るい声や笑顔が大切であると考え、これまで5年以上にわたって検討してきた「保育所の統合問題」については「統合せずふたつの保育所を継続する」ことといたします。

六点目は「島の宝を守る」ことについて申し上げます。地球温暖化対策が世界的な課題となっておりますが、わが町においても、地球温暖化は深刻な影響をもたらしています。

利尻礼文サロベツ国立公園に指定されている礼文町は、3百余種の高山植物が咲き乱れ、特にレブンアツモリソウ、レブンウスユキソウなど礼文島固有の花が多く、「海拔ゼロメートルからの高山植物園」をキャッチフレーズに全国でも希少な高山植物が咲く自然豊かな島です。しかし、近年の地球温暖化現象は、昔に比べ開花時期や花の減少など、礼文島の高山植物に多大の影響を与えています。この問題は、礼文島観光に大きな影を落としており、観光のみならず、島の自

然環境の破壊にもつながる大きな問題であります。
特に、花の咲く場所と生活や産業の場が同じ高さの礼文島では、地球の温暖化がそのまま花たちの生育環境に影響します。私は、わが町の今と将来に直結する大きな問題としてCO2排出削減のため、国や民間と連携して低炭素社会への転換を図る取り組みを礼文島から全国に向けて発信してまいります。

最後は「ブロードバンドの実現」についてであります。国は「2008年までにブロードバンド・ゼロ市町村」という方針を打ち出しておりましたが、ようやく、NTT東日本が礼文島に光ファイバー敷設の検討に入りました。加えて、今年度の国の「経済危機対策」によって、デジタルディバイドの解消対策が実施されます。私は、この機会を逃さず、これらの基盤が整備されることにより、島の若者が全国に向かって、もっともっと貢献できる地域づくりを推進したいと考えております。また、これに合わせて老朽化した防災行

政無線施設の「デジタル化」更新と「地域公共ネットワーク」の整備を進めてまいります。

以上、冒頭にも申し上げましたが、町政の目標は、活力あふれる地域づくりと安心して暮らせる社会づくりであると考えており、先人が築き上げてこられたふるさとに誇りを持ち、夢を抱き続けることのできる活力あふれる元気な礼文にするため、本年度「第五次礼文町総合振興計画」（仮称）を策定いたします。そして「礼文町を元気な町にしたい」と願っている総ての人達と共に難局を乗り越えてまいります。

私は、「私達の仕事は、町民みなさんの幸せのためにある」という基本のもと、次の世代に誇りと自信を持って引き継げる「夢と希望に満ちあふれた元気な町」「住んでよかったと誇りに思える礼文町」を創り上げてまいりますので、議員各位並びに町民皆さんの尚一層のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます、所信の表明といたします。